

## 季節の花や葉っぱや

### 莖でつくるおもちゃ (2)

瀧田 要吉

#### (三) 雑草の意義

空氣や水は私達日常の生活する上には一日もなくてはならないものではあります、それが餘りにも普通のことであるため、かえつてその存在すらも忘れられてゐるうちに、前述の路傍の雑草や花にしても、氣節を色どる一つの點景としてはながめられてもそれが年々歳々くり返されてゐることであつて見れば、時によつてはその存在すらも忘れてゐるのではないかと考えられます。

然しこれを取り立て一つの主材として考へる時始めて『なる程』と、造化の神の意志にふれた思ひのするのは私だけでありましようか。

元氣に飛び廻る子供の姿が可愛らしいものであるならば同時にその安らかに眠りつゝある姿も又こよなく愛らしいものであるように、雄々しい古木に可憐な花を咲かせる梅の木にしても、石垣の割れ目などにひつそりと人知れず咲いてゐるすみれの花にも云い知れぬ神の意志が働いてゐることを感じるのは私だけであり

ましようか。

文化が向上し生活が簡易化され、特に戦後のとかく輕薄に落入り易い現在の生活環境はともすれば幼児達をも自然への親しみえ遠ざけ勝つことではなかつたと思ふものであります、だん／＼くだん／＼しくなるので要點だけを述べさして貰うことにして、要は保母さん方やお母さん方におかれてもつと自然に親まれ、その自然現象の中から容易に手にとれる草花をもう一度見直して頂いてそれらの形や色を前月號の如き自然物のおもちゃとして幼児の興味と創作の心を誘導すると共に、無理やこじつけでなく、自然觀察をもふくめて、情操、色感、創造のよるこびまでもつてゆきたいものと念願するものであります。

#### (四) 形態の觀察

草や花にしても、その特定の形をもつて然もその形狀をそのまゝ利用して他の形態を表現するのが自然物利用のおもちゃであるならば、直ちに起きてくる問題は、その形態を利用して、如何なるもの

を表現して見ようかとゆう、そのものの形態の考察と、その花や草にしるそのものについての観察が一番必要になつてくるわけでありませう。

花にせよ、草にせよ、その本来の目的はその種族を保存する営みのためにあるのであつて、ある花は丸くある花は細長くもあり、一木の葉草の葉にしても同様に廣いもの細いもの丸いもの等その形状は千差萬別であります。このようにその種類によつて思ひ／＼の形式をもつて已れの種族を存続しようとする力は同時に造化の神の神秘によつて不思議な美しさと種々多様な形を形成しております。

自然物利用のおもちはやほこうした造化の神の造つた自然機構を利用して他の形態を表現して見ようとするのでありますから、その花がこの葉が何を作るのに適當してゐるかと言ふことを種々な方面から觀察して行くことが必要となつてくるのであります。

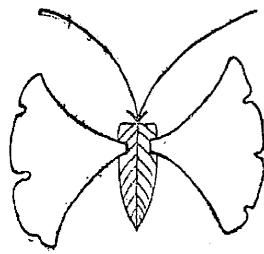
こゝに例えばやなぎの葉つばがあるとします。この葉特有の細長い形状はそれ自身をながめてゐるとなにか刀のような

形ですが、これを横にして見ると、なにか舟のような聯想がわきだしますし、更に四枚を横に並べますと、とんぼの翼を考へられるなど、四方から形態を觀察し色々なものを聯想できます。この境地はすでに創造の世界であつてこれを幼児に與える場合にもこの形をしづかに觀察させますと、こども達はそ

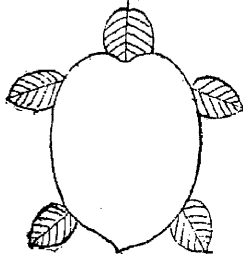
## 『形の省略』

## 『形の觀察』

## 『形の誇張』



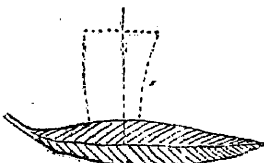
あよう



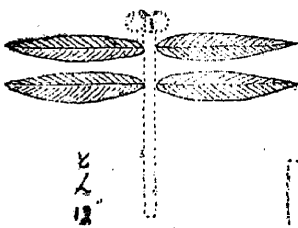
かめのこ



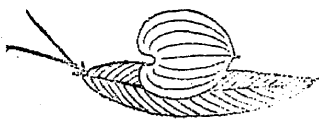
かたな



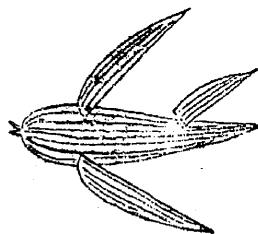
小舟



とんぼ



かたむり



つばめ

天眞の睿智でとても大人の及ばぬ形を聯想し創作するものです。

## (五) 形の省略

一方これを指導的な立場から與える場合の基本的なことになりますと、このものによつて何を表現するかと云うことは云つてみれば、その基本形態に對する他方面からの經驗が必要となつてきます。

例えば圖のように、やなぎの葉と山芋の葉（でなくとも丸い葉ならよい）の組合せでかたつむりを表現する場合にしても、その基本形態である、かたつむりの形についての正しい認識がないと折角の名案も行詰りを來す結果になる故に、常に事物の觀察については實物は勿論繪や寫真などについても正しい形についての認識と觀察を深めることが必要となつてきます。更には、又その形態を自由自在に省略して考へて見ることも練習しておくことも必要です。

前述をくり返すようですが例えば圖のように笹の葉でつばめを表現する場合、一枚の葉を胴と尾にし、翼には半分にさ

いた葉を兩はじえ當るなどで、つばめの飛んでゐる姿を表現する場合などには、やはりふだんの正常な形態を認識した素養によつて、當意即妙の機智がこの省略された形態の中に表現されゆくものと考へられます。

## (六) 形態の誇張

漫畫とか略畫とか云うものは、一種の形態の省略と相まつて、その特長を誇張して表現するから面白いのであつて、いづれは限られた形質によつて、あるものを表現する場合、それは當然寫實ではなく、その寫實の缺けてゐるものから來る面白さを、ねらいとするために、その特長を誇張して表現しなければ、その目的物の感じが出て來ないのであります。

例えば、柿の葉で、かめの子を作る場合柿の葉それ自身では、かめの子とはなんの關聯もありませんが、これにゆすら梅の葉のような小形の葉を頭や手足にそえることによつて始めてかめの子となつたり、いちようの葉で蝶々を表現する場

合でも、いちようの葉一枚では何んら蝶々との關連はなくとも、これを二枚合せることによつて蝶々の翼を誇張轉用してみることによつて始めて蝶々が表現されるのであります。

この場合その誇張した部分によつて一つの形を現わすと云うことは、その誇張した所をもつともよく活かすためには、細かい部分を省略して行くことによつてその特長をよく活かすことになるのであります。

來月はこれら形成された形の表現方法について、幼稚園や保育所などで利用出来る個別表現、集合表現、相互表現、點景表現、更らにはその構成法、貼付法、補助材料までに及んでみたいと存じます。

(つづく)

×

×

×